

1票の格差と民主主義



慶應義塾大学 法学部 教授

粕谷 祐子

(お問い合わせ先) E-MAIL: ykasuya@law.keio.ac.jp

研究の背景

「1票の格差」は、有権者が投じる1票の価値が選挙区によって異なる状況を意味し、選出する議員1人あたりの有権者数が選挙区ごとに異なることから生じます。これは選挙のたびに新聞などで話題になりますが、日本だけでなく世界の多くの国でも起こっている現象です。

なぜ1票の格差が問題視されるかという、「法の下での平等」という憲法で保障された権利を侵害するだけでなく、税制や補助金配分での歪みなど、様々な面で「望ましくない」影響をもたらすからです。このように重要な問題でありながら、国際比較の観点からの実証的分析は非常に少ないのが現状で、それを打開すべくこの研究を企画しました。

研究の成果

私たちの共同研究チームでは、まず、1票の格差が世界各国の下院議会選挙においてどの程度存在するのかをデータベース化しました。それを地図で示したのが図1です。色が濃く塗られている国ほど格差が大きいことを意味します。図から、日本の衆議院議員選挙における1票の格差は、国際比較でみるとそれほど大きくないことがわかります。

次に、なぜ1票の格差が大きい国と小さい国が生まれるのかに関する国際比較分析を行いました。これまでの研究では、選挙制度（小選挙区制か比例代表制かの違い）が主な要因として知られていましたが、この研究では新たに次の2点を明らかにしました。

第1は、1票の格差とその国が民主主義的である程度との間には、逆U字の関係があることです（図2）。つまり、1票の格差は、野党がほとんど票をとれないほど政治的締め付けが強い独裁と、チェック・アンド・バランスが発達している民主主義の国においては小さく、独

裁的ながらある程度野党が勢力を持つ国（例えばマレーシア）では大きい傾向にあります。第2に、司法府が政治から独立している程度が高い国ほど1票の格差は低い傾向があります。これは第1点で示したことをさらに掘り下げた分析で、民主主義体制においてチェック・アンド・バランスを担保する諸制度の中でも司法府の役割が特に重要なことを示しています。

今後の展望

1票の格差問題は、一般の人にはその重要性が肌身で感じにくく、また法律や行政のテクニカルな問題として専門家の間でのみ処理されがちです。こうした状況に一石を投げようと、一般読者向けの書籍（新書）を共著の形で準備しています。

関連する論文

Ong, Kian-Ming, Yuko Kasuya and Kota Mori “Malapportionment and Democracy: A Curvilinear Relationship,” *Electoral Studies*, 49: 118-127, 2017.

Wada, Junichiro, Yuta Kamahara and Yuko Kasuya “The State of Malapportionment,” paper presented at the American Political Science Annual Meeting, Philadelphia, USA, 2016年.

粕谷祐子「憲法問題としての一票の格差—司法府の役割を中心に—」日本政治学会総会・研究大会（共通論題）報告論文、2015年。

関連する科研費

2014年度—2016年度 基盤研究 (B) 「一票の格差に関する包括的研究：世界の現状・原因・帰結」



図1 1票の格差の程度の国際比較
出所：Wada, Kamahara, Kasuya 2016

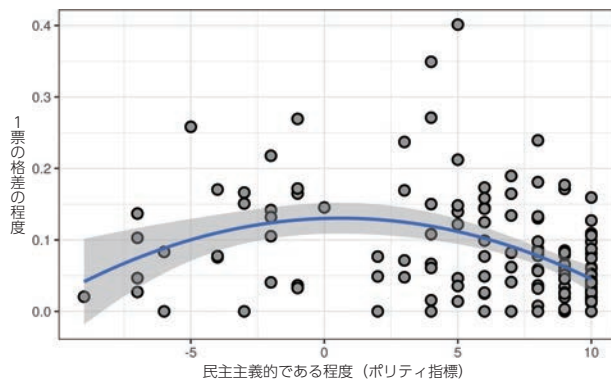


図2 1票の格差と民主主義の程度
出所：Ong, Kasuya, Mori 2017